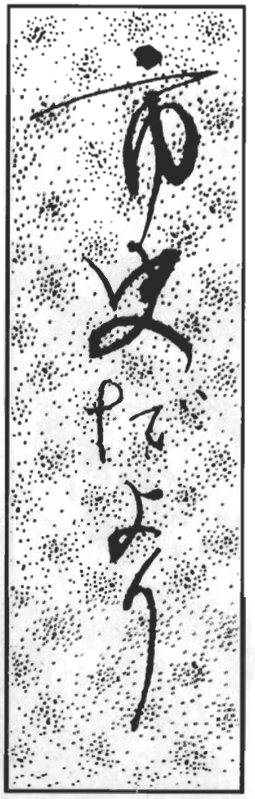



第　31　号
2008.3.15
編集・発行
綾瀬市
生涯学習課
市史文化財担当
〒252-1192 神奈川県
綾瀬市早川550
☎0467-70-5637
(直通)

神奈川県指定史跡

# 中世の山城　早川城跡

## ―城山公園歴史散歩―

### 中世の山城―城山―

現在、城山公園として市民に親しまれている早川城跡は、かつては城山「じょうやま」と呼ばれ、鎌倉武士渋谷氏の居城という伝承のある中世(鎌倉時代から戦国時代にかけて)の面影を色濃く残す山城跡です。

綾瀬市教育委員会は平成元年～六年、早川城跡の学術研究を目的とした発掘調査を行いました。これは周辺の区画整理事業の影響が早川城跡にも及ぶことが懸念されたためです。調査の結果、早川城跡は室町時代初期ないし鎌倉時代にまでさかのぼる可能性のある中世城郭であることが明らかとなりました。県内でも、往時の姿を良好に残す数少ない城郭であることから、その学術的価値も高く評価され、今年、神奈川県指定史跡となりました。

城山は目久尻川に向かって相模野台地の南端が舌状に突き出した先端に位置し、その東～南～西側は急峻な崖で、天然の要害の地となっています。中世の城は、石垣を積み上げる戦国時代以降の城とは異なり、周囲に掘切を巡らし、その内側に掘った土を積み上げ土塁を築いて、主郭(戦国時代の城では本丸に当る部分)が造られました。早川城跡では三方を崖に囲まれた地形が利用され、北側の台地へと続く部分に深い掘切を設け、内側に土塁を築き、加えて周囲の急斜面にも掘切と土塁が巡らされて主郭が形成されています。主郭西部には物見塚があり、西側斜面二カ所では曲輪(腰郭)が確認されました。この城郭は、有事の際に武士が立て籠もる砦としての機能をもった山城だと考えられています。

また、中世城郭遺構のほかに、縄文時代中期及び古代の竪穴住居址も多数確認されました。城が造られる以前、この地には大規模な集落が存在していたと推定されています。

調査結果を受けて開発計画の一部が再考され、城跡は現在、城山公園の中で中世城郭の遺構を残した状態で保存されています。

北側の掘切と土塁（西側）
現在も往時の姿をとどめており、掘切や土塁の様子がはっきりとわかります。

## 城山公園からの出土品

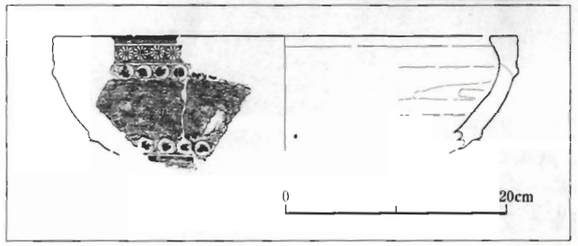
城山公園では平成六年以降の調査も含め、様々な出土品があり、整理・研究が進められています。

中世城郭に関連するものでは、十四世紀末から十五世紀前半の瓦質の火舎(火鉢)、十四世紀のかわらけ(素焼きの皿)、渡来銭などが出土しました。量は少ないものの、城郭の年代を示す重要な資料です。

縄文時代中期の住居址からは復元可能な多くの土器が出土しました。

古代の住居址からも多くの遺物が出土しており、なかでも奈良三彩は県内で六例目で、この地と中央政権との関係を示す貴重な資料です。

中世　西北部の曲輪から出土した火舎(火鉢)



中世　東側の谷部から出土したかわらけ(素焼きの皿)

縄文時代中期 土器

古代 竪穴住居址

古代
奈良三彩小壺蓋

公園の北側入口付近や、中央の広場、南端の堰堤の下からも、縄文時代中期や古代の竪穴住居址が多数見つかっています。

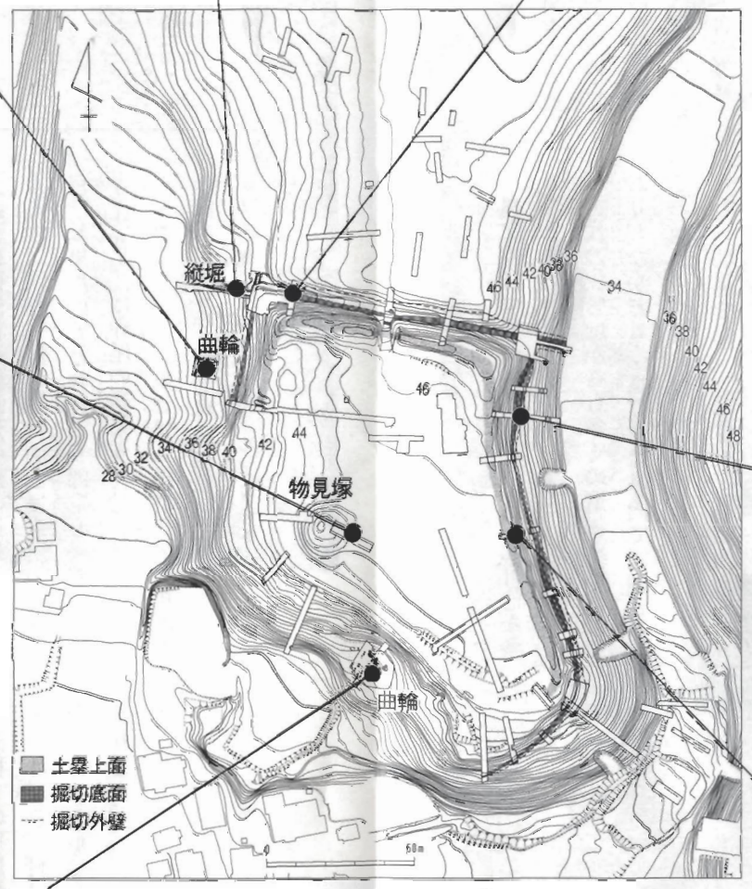
城山公園全景(平成18(2006)年撮影)

**北西部の曲輪**
柱穴からは火舎(火鉢)が出土しています。南西部の曲輪とも、発見された柱跡などから見張り小屋などがあったものと想定されます。

**掘切西端部の縦堀**

**北側の掘切と土塁**
掘切は、幅が底部で2～2.5m、上端部で11m余、深さは約2.5m、底面から内側土塁の最上部まで最大5mを超え、長さ約100mにわたって延びる大規模なものです。

**物見塚**
主郭周囲の土塁と同じ構造で、見張り台であろうとされています。昭和6(1931)年、上に「東郷氏祖先發祥地碑」が建てられました。




**早川城跡全体図（平成元～6年調査）**
掘切と土塁は、西側の一部を除いて、主郭の周囲を巡っていると考えられます。掘切の形は断面が逆台形の箱薬研堀です。
斜面沿いに侵入する敵を防ぐ目的で造られた縦堀も数カ所で検出されています。

**東側斜面の掘切**
東側の谷部からかわらけ(素焼きの皿)が出土しました。

**南西部の曲輪**
斜面を削平して平坦部を作り出した形状が現在でもよく見て取れます。

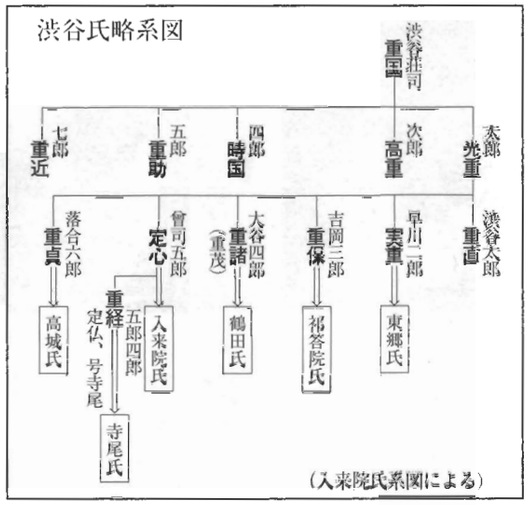
**東側縁辺部の土塁**
土塁は北側・周囲ともに、ローム層の赤土と黒色土を交互に積み突き固めた版築という構造で築かれています。
東側通路脇にも土塁の上端が見られます。

## 発掘された中世の早川城

## 早川城跡と渋谷氏　―文献からみた早川城跡―

明治十八(一八八六)年に調査された地誌『綾瀬村風土記』の早川村の吉跡の項に、「土人相伝ヲ鎌倉時代渋谷荘司ノ居城廃跡ナリト」、「現今圃ニ相開ケ居ル毛陸暫馬場城郭ノ残跡アリテソノ近辺ニ陶瓦器ノ破片多クアリ」と記されています。

ここに出てくる渋谷荘司重国は、平安時代後期から鎌倉時代の初めに、藤沢市北部から綾瀬市にかけて、渋谷荘といわれた地域を支配していた有力な武将でした。渋谷氏は桓武平氏の流れを汲む一族ですが、重国は源頼朝を支援して頼朝の鎌倉幕府開設に功あり、一族は鎌倉幕府の御家人となりました。




頼朝の死後、有力な御家人たちが相争う中で、宝治元(一二四七)年、執権北条時頼が三浦氏を滅ぼした宝治合戦で北条氏側についた渋谷氏は、恩賞として薩摩国入来地方(鹿児島県薩摩川内市)に領地を得ます。この後、太郎重直を渋谷荘に残して、早川次郎実重以下の兄弟が入来地方へ移り住み、新たな所領の地名、東郷・祁答院・鶴田・入来院・高城を名乗るようになりました。

入来院氏が伝えた『入来文書』からは、一族の故郷渋谷荘の姿がうかがえます。系図の名乗りに、早川・吉岡・大谷・曾司・落合及び寺尾とあるように、早川周辺は渋谷一族の支配地域でした。曾司は長泉寺周辺の祖師ヶ谷、大谷は上浜田遺跡のある海老名市大谷をさすと思われます。このほか、「入来文書」には深谷や藤意が一族の領地として見えます。渋谷一族の精神的な拠り所の「五所宮」は早川の五社神社、五郎定心一族の菩提寺「法音寺」は寺尾の報恩寺と目されています。

また、早川の長泉寺にも渋谷氏の菩提所との伝承があり、『綾瀬村風土記』には「渋谷荘司ノ古塚(墓)ナリト唱フルアリ」とあります。

**城山からの目久尻川方面遠景**
南西部の高輪から西側の湧水池南側へ下ると、正面に宮久保遺跡(現在綾瀬西高等学校)、その奥に五社神社のある西山を望みます。

早川城跡はこのように渋谷一族の遺蹟の中に位置しており、直接言及する中世の文献は未発見ながら、渋谷一族と関わりがあったであろうと推定されています。

なお、江戸時代になると渋谷氏の足跡は消え、天保十二(一八四一)年の『新編相模国風土記稿』の早川村の項に、「石川四郎兵衛重久の陣屋跡、村ノ東ニアリ、土俗城山ト呼、今山林トナル、開サ六千坪」とあるにとどまります。石川氏は徳川家の旗本で、天正十九(一五九一)年から延宝四(一六七六)年まで早川村の領主の一人でした。家が途絶えており、陣屋については残念ながら未詳です。

**早川城跡周辺の中世遺跡**
(平成11(1999)年撮影)

### 早川城跡周辺の中世遺跡

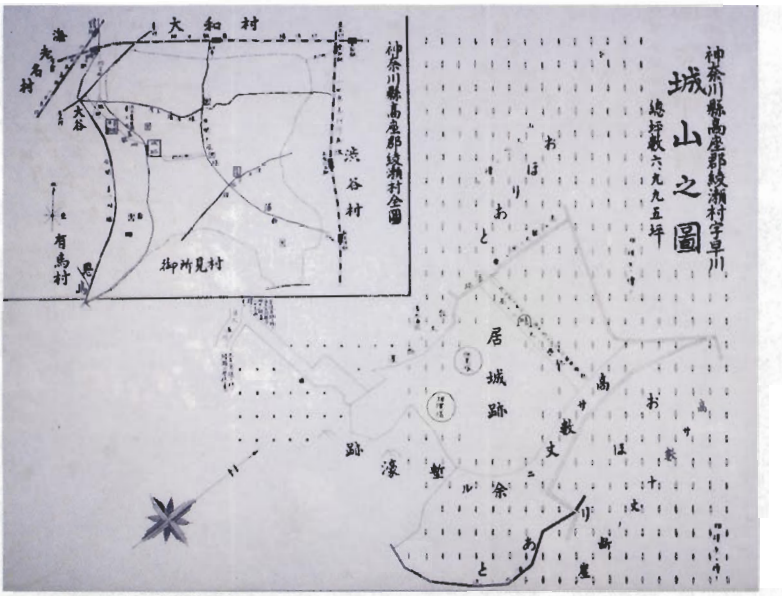
早川城跡周辺では渋谷氏にゆかりのある寺社をはじめ、多数の中世の遺跡があります。

目久尻川対岸の、古代の木簡や墨書土器が出土した宮久保遺跡(現綾瀬西高等学校)では、中世の武士の館跡と考えられる建物跡群が発掘されています。また、その北側の丸山遺跡では、中世において屋敷地や領地の境界を示していた溝や土塁が認められます。丸山周辺には「どえ(土合)」「つくだ」など古い地名が伝わっていますが、「どえ」は領主の屋敷地を示す「土居」もしくは「土塁」が転化したもの、「つくだ」は領主の直営田をさすとされ、中世領主の居館の存在が推定されています。

宮久保遺跡を見下ろす西山の上に位置する五社神社からは、境界を示す大溝、地下式坑、埋納銭などが出土しています。その北の長泉寺には中世墳墓群が残されています。さらに城山とは谷を挟んだ南にある早川天神森遺跡で溝が検出されており、その南の吉岡に残る地名「堀の内」も同様に屋敷地の存在を示すものです。

このほか比留川流域では、下流の落合のびわみ堂跡でも中世墳墓が見つかっています。

昭和10(1935)年
横浜貿易新報による
「早川城址 東郷元帥
祖先發祥之地」碑




昭和6(1931)年 城山之図
(「薩州東郷家祖先發祥地タル史蹟建設及び保存計画趣意書」より)

昭和7(1932)年頃 早川城址整備完成式典

## 昭和初期の早川城跡

昭和初期からの全国的な史蹟名勝保存の機運の中で、綾瀬村では昭和六～七(一九三一～三二)年、城山を城址公園として整備する大事業が展開されました。物見塚の上に残る「東郷氏祖先發祥地碑」は、この時に、この時代の国民的英雄だった海軍元帥東郷平八郎が中世の渋谷一族の流れを汲むことにちなんで建てられたものです。

建設趣意書の「城山之図」には、「高サ数十丈の断崖」の斜面に「高サ数丈ニ余ル塹濠跡」が巡り、北側掘切と土塁は「巾二丈ニ及ビ深サ二丈ニ及ブ」「高サ二丈ノ塁跡」と記され、かつての早川城跡の姿を彷彿とさせます。

村内外からの寄付と村民総出の勤労奉仕による公園は、昭和十(一九三五)年、神奈川新聞社の前身である横浜貿易新報が公募した神奈川の名勝史蹟四十五選の第六位に選ばれました。物見塚の西南隅に、この記念碑「早川城址東郷元帥祖先發祥之地」があります。

早川城跡では未調査地区も多く、未発見の虎口(城の入口)をはじめ、将来の研究・調査に期すところがたくさんあります。

都市公園としての城山公園の下に中世の山城が眠っていることに思いを馳せながら、現代の早川城を散策してはいかがでしょうか。

**引用・参考文献**(綾瀬市・綾瀬市教育委員会発行)
『早川城』Ⅰ～Ⅳ(一九九〇～九五)
『早川城跡発掘調査報告書』(一九九七)
綾瀬市文化財調査報告書『綾瀬村風土記』(一九八三)
「平成一三年度文化財めぐり」
『綾瀬市史』第九巻別編考古(一九九六)・第一巻資料編古代中世(一九九一)・第二巻資料編近世(一九九二)・第三巻資料編近代(一九九五)・第六巻通史編中世近世(一九九九)・第七巻通史編近現代(二〇〇三)・第一〇巻ダイジェスト(二〇〇四)